

# こんなところに！?

## 戸山キャンパスの文化財

学習院戸山キャンパスには、国指定重要文化財である正門や、明治時代に創建された煉瓦造建造物である4B館・C館、江戸時代の尾張徳川家下屋敷の遺構や遺物、先史・古代の遺構や遺物など、様々な文化財があります。このパンフレットでは、それらの文化財をごく簡単に紹介しています。  
(A～Cの遺跡の調査は終了し、現在は建物となっています。遺構を見ることや立ち入りはできませんのでご注意ください。)

### 戸山キャンパス 歴史的建造物・記念碑・遺跡 MAP



MAP

1

### 国指定重要文化財 正門

1877(明治10)年、神田錦町に開校した学習院の正門として製造されました。1886(明治19)年に神田錦町校舎が火災に遭った後、鐘ヶ淵紡績会社工場の門となっていたものを卒業生が買戻し、1930(昭和5)年に目白学習院校地内の「御柳壇」の門として設置されました。その後、学習院女子短期大学開学の年の1950(昭和25)年に、戸山キャンパスの正門として移設されました。日本最古の洋風鉄門として、1973(昭和48)年に重要文化財に指定されました。



現在の正門



神田錦町の学習院と正門

MAP

2

### 笠石

華族女学校が永田町にあった1889(明治22)年～1918(大正7)年頃に門柱に乗せられていたもの。1918(大正7)年に女子学習院の青山移転にともない、通用門の門柱に据えられました。戦後は旧校地(現秩父宮ラグビー場)に放置されたままになっていましたが、1974(昭和49)年に戸山に移されて修復され、4B館前の木陰に置かれています。



現在の笠石



華族女学校彩色絵葉書

MAP



### 鐘

第一次世界大戦時、中国・青島の海軍基地に停泊していたドイツ軍艦のものと言われています。鐘の内側に「B.V.G. 1907」の銘があります。1947(昭和22)年頃、宮内省より女子中・高等科に寄贈されました。4B館前に建てられた鐘楼にかけられ、1952(昭和27)年まで戸山キャンパスの授業の開始・終了を告げていました。



上：現在の鐘、下：1960年代頃の4B館と鐘



MAP

4

### 御歌碑

1935(昭和10)年、華族女学校開校からの50年の記念として青山の女子学習院に建立されました。校地移転後の1947(昭和22)年、戸山に移されました。1887(明治20)年、昭憲皇太后より賜った御歌「金剛石 水は器」が刻まれています。優れた能力を持つ友人と切磋琢磨し、学習に励むことの大切さを説いています。



金剛石

金剛石も みかかすは  
珠のひかりは そはきらむ  
人もまなびて のちにこそ  
まことの徳は あらはるれ  
まつりの時計のはりのたえまなく  
めくるかことく 時のまの  
日かけをしみて はけみなは  
いかなるわざか ならさらむ

水は器

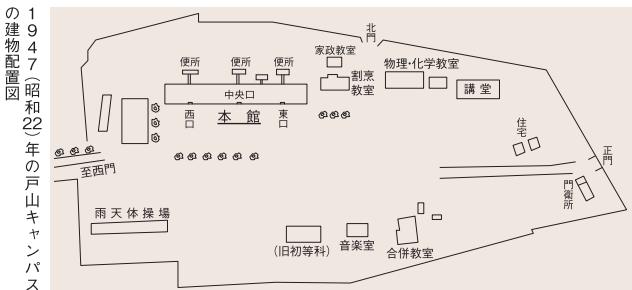
水はうつはにしたかひて  
そのさまさまになりぬなり  
人はましはる 友により  
よきにあしきに うつるなり  
おのれにまさる よき友を  
えらひもどめて もろともに  
こころの駒に むちうもて  
まなひの道に すすめかし

# 戸山キャンパスに残る建物（4B館・C館）

1872(明治5)年に設けられた天皇の護衛兵を近衛兵といいます。近衛騎兵連隊は、全国から選抜された精銳の兵士によって構成されたといいます。1912(大正元)～2(大正2)年にかけて、兵営が麹町元衛町(現在の大手町)から戸山へ移されました。以後、現在の戸山キャンパスの地は近衛騎兵連隊の駐屯地として利用されました。



【兵舎時代(1931年頃)】  
兵舎 → 本館(その後の4B館)  
炊事場 → 割烹教室(その後のC館)  
弾薬庫(器材庫) → 講堂  
将校集会所 → 合併教室(礼法室)  
医務室 → 音楽室  
連隊本部 → 旧初等科  
軍馬補充部 → 雨天体操場?



1947(昭和22)年の戸山キャンパスの建物配置図



◀1918(大正7)年頃の兵舎(現在の4B館)の絵はがき  
(南西側から見た様子)



▶1935(昭和10)年の兵舎(現在の4B館)  
(南東側から見た様子)



◀1950(昭和25)年第1期の短期大学部の学生  
後ろに4B館が見えます。



▶90周年記念絵葉書  
華族女学校から90周年を記念して作成されたもの。中央に4B館が描かれています。女子中・高等科のキャンパスを特徴づける建物となっています。



◀1980年代の短大卒業生と4B館  
1994(平成6)年に行われた改修前の屋根は瓦葺きでした。



▶2020(令和2)年耐震改修前の4B館

## 4B館

1911(明治45)年着工、1913(大正2)年竣工の煉瓦造り2階建ての建物。屋根裏には木製のクイーンボストラスが用いられています。当初の建物は瓦葺きで、外観はイギリス積みの煉瓦壁のみでしたが、関東大震災後の補修により鉄筋コンクリートの構造補強が行われ、外壁には薄茶色の付柱などが設けられました。煉瓦造と鉄筋コンクリートを組み合わせた珍しい構造となっています。建築から100年以上、1946(昭和21)年から女子学習院が校舎として利用開始して以降現在まで60年以上になりますが、歴史的・文化財的価値から、現在まで幾度の改修・補修を行いながら校舎として使用され続けています。



「近衛騎兵連隊之跡」碑  
1983(昭和58)年建立。  
現在の4B館の前に置かれています。石碑の文字は閑院純仁(元閑院宮春仁王、1921(大正10)年近衛騎兵連隊入隊)によるものです。

## MAP 6

## C館

1912(明治45)年に竣工した桟瓦葺切妻造、煉瓦造平屋の建物です。外壁は4B館同様イギリス積の煉瓦壁です。屋根は、現在も瓦葺が維持されていますが、建造当初には煙抜けのための屋根が設けられていました。近衛騎兵連隊時代には、炊事場・風呂場として使用されました。戦後、女子学習院が戸山に移転した後は、割烹家政教室が置かれ、1972(昭和47)年に女子中・高等科D館が完成してからは工芸教室、菓々会売店として利用されました。2010(平成22)年に全面改修工事が行われた後、常磐会が使用しています。



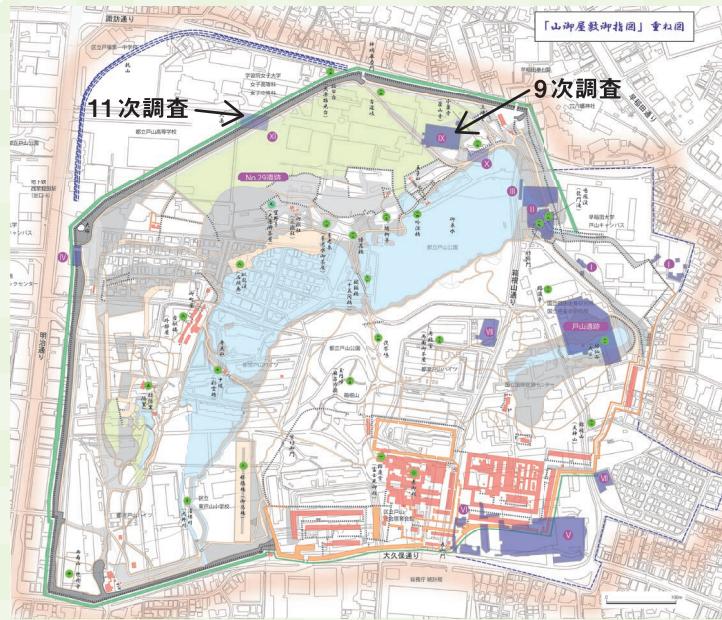
現在のC館



近衛騎兵連隊時代の炊事場の様子

## MAP 5

# キャンパス内でみつかった 戸山屋敷の時代（江戸時代） の遺構と考古遺物



戸山屋敷復原図(新宿区教育委員会)

江戸時代、戸山の地には尾張徳川家の下屋敷がありました。「戸山御敷」、「戸山屋敷」、「戸山山荘」と呼ばれた広大な屋敷では、鹿狩りや花見の宴を催したり、地形を生かして作られた池泉回遊式の庭園は江戸有数の名園といわれ、将軍も度々訪れていました。学習院の戸山キャンパスは、この戸山屋敷の北西の一角に位置しており、主には下屋敷の庭園部分でした。戸山屋敷の中心となる「御殿」は現在の戸山公園(箱根山地区)にあります。キャンパス内にも遺跡は広がっています。これまでにキャンパス内で行われた尾張徳川家下屋敷跡第9次・第11次調査においても、屋敷境の堀跡や御花壇跡などの、戸山屋敷に関係する重要な遺構や考古遺物が見つかっています。

(戸山キャンパス内の遺跡の調査は終了し建物が建っており、立ち入りはできません。戸山公園内を散策してみましょう)



「戸山御庭ノ図」(徳川林政史研究所)  
1793(寛政5)年～1803(享和3)年  
頃の庭園の様子を描いたもの



餘慶堂(御殿) 戸山荘図  
(新宿歴史博物館)

鳴鳳渓・竹猪門 戸山荘図  
(新宿歴史博物館)

MAP A

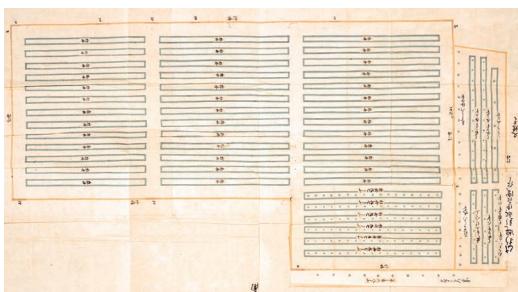
## 戸山屋敷の御花壇跡

2015(平成27)年に行われた女子中・高等科総合体育館の建設地(尾張徳川家下屋敷跡、新宿区No.85遺跡第9次調査)から検出された溝状遺構。断面箱形の溝状遺構が整然と並び、新旧3時期にわたり構築されました。17世紀後葉頃の戸山屋敷の御花壇跡と推定されます。初期伊万里の磁器片なども出土しました。

「山御屋敷御花壇取広ノ図」には、牡丹、はまなす、しゃくなんげ、あぢさい、花ざくろ、いばらなどが書かれており、その多くは当時流行していた牡丹の花壇であったようです。



4~7号遺構(3区部分)検出状況(南西から)(新宿区教育委員会)



「山御屋敷御花壇取広ノ図」(徳川林政史研究所)  
1677(宝永5)年以後～18世紀初め頃に描かれた図と推定される



御花壇跡出土磁器片(新宿区教育委員会)



ボタン



シャクナゲ



ハマナス



アジサイ

(花の写真は国立歴史民俗博物館くらしの植物苑提供)

MAP B

## 戸山屋敷の 敷地境の堀跡

2018(平成30)年に行われた仮4号館建設地(尾張徳川家下屋敷跡、新宿区No.85遺跡第11次調査、女子中・高等科グラウンド部分)から検出された戸山屋敷の敷地境の堀跡。1671(寛文11)年に当地を拝領した後に設けられ、1675(延宝3)年に屋敷地北西部の拡張を行った際に埋め戻されたと思われます。



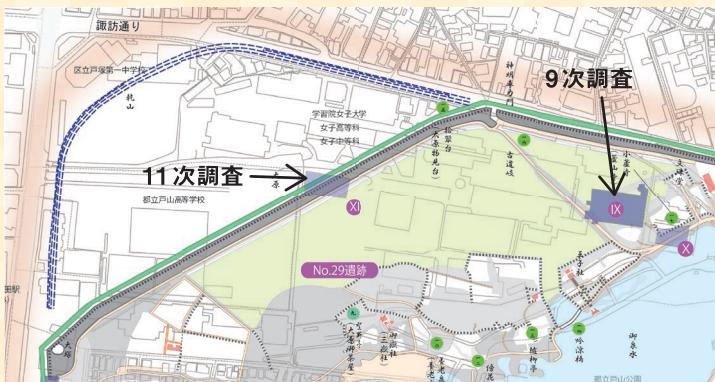
(新宿区教育委員会)

# 戸山キャンパスとその周辺の先史・古代の遺跡

戸山キャンパス内には、先史～古代の人々の活動の痕跡も見つかっています。

2015(平成27)年に行われた女子中・高等科総合体育馆の建設地(尾張徳川家下屋敷跡、新宿区No.85遺跡第9次調査)では、平安時代(8～9世紀)の堅穴住居跡が見つかっています。調査区からは8～9世紀の須恵器長頸壺や、古墳時代の土師器(壺形土器)も見つかりました。

また、女子中・高等科のグラウンド(新宿区No.29遺跡)では、1977(昭和52)年にテニスコート脇の水道管埋設工事の際に、ほぼ完形に復元できる8～9世紀の火葬骨器が見つかりました。この火葬骨器は、東日本に火葬が普及はじめた頃の重要な資料で、現在は新宿歴史博物館に展示されています。



※戸山キャンパス内の遺跡調査は終了して建物等が建っています。立ち入りはご遠慮ください。



女子中・高等科のグラウンド  
(新宿区No.29遺跡)出土  
火葬骨器(平安時代、8～9世紀)  
土師器の壺に須恵器の环で蓋をしたもの。(新宿区教育委員会)



尾張徳川家下屋敷跡(新宿区No.85遺跡)  
第9次調査出土 堅穴住居跡  
(平安時代、8～9世紀)(新宿区教育委員会)

尾張徳川家下屋敷跡(新宿区No.85遺跡)第9次調査出土  
壺形土器(古墳時代)、須恵器長頸壺・カマド支脚  
(平安時代、8～9世紀)(新宿区教育委員会)



## 戸山キャンパスの周辺の弥生時代遺跡



戸山遺跡出土弥生土器(新宿区教育委員会)



穴八幡神社遺跡出土 弥生時代大型住居跡(新宿区教育委員会)

キャンパス周辺には弥生時代中期～後期の遺跡が多く見つかっています。戸山キャンパスの敷地内ではこれまで弥生時代の住居跡などは発見されていませんが、わずかながら弥生時代～古墳時代の土器片などが出土しています。戸山キャンパスの近くには弥生時代の集落遺跡である戸山遺跡や穴八幡神社遺跡などがあります。キャンパスの南側の谷(戸山公園内)には、弥生時代には水田が広がっていたことでしょう。少し離れたところには、弥生時代の方形周溝墓がみつかった西早稲田三丁目遺跡や、早稲田大学の校地内にある弥生時代の環濠集落である下戸塚遺跡などがあります。これらの遺跡の発掘調査によって、この戸山の地は尾張徳川家が屋敷を構えるよりも遙かに昔から、人々の暮らしが営まれていた場所であったことがわかっています。



西早稲田三丁目遺跡出土 弥生土器・古式土器  
(新宿区教育委員会)

